

第3回町民検討委員会 ワークショップ 結果報告書



別海町

目的

2009年度（平成21年度）に策定された第6次別海町総合計画が、2018年度（平成30年度）をもって終期を迎えます。総合計画とは、別海町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に住民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、住民の方々のご意見を広く反映すべく、全5回を開催するものです。

第3回となる今回のワークショップでは、「歴史・文化」、「産業」、「観光」、「雇用」の4つの分野について、現状の課題とこれからの別海町が目指す姿の意見交換を行い、ワークショップでの住民の方々のご意見の中から、新たに策定する別海町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

また、このような話し合いを通して、まちづくりへの興味・関心の醸成、協働によるまちづくりにつながれば幸いです。

概要

- 日 時：平成30年6月25日（月） 19：00～20：30
- 場 所：別海町役場庁舎1階 101・102号会議室
- 対 象：第7次別海町総合計画町民検討委員
- 主 催：別海町役場 総務部 総合政策課
- グループ：3グループ（A班6名、B班6名、C班6名）
- テ ー マ：元気な別海町

当日のスケジュール

開会あいさつ (19:00~19:05)

ワークショップのやり方とルール説明
(19:05~19:10)

ワークショップ討議
「元気な別海町」
ディスカッション (19:10~19:40)

休憩 (19:40~19:45)

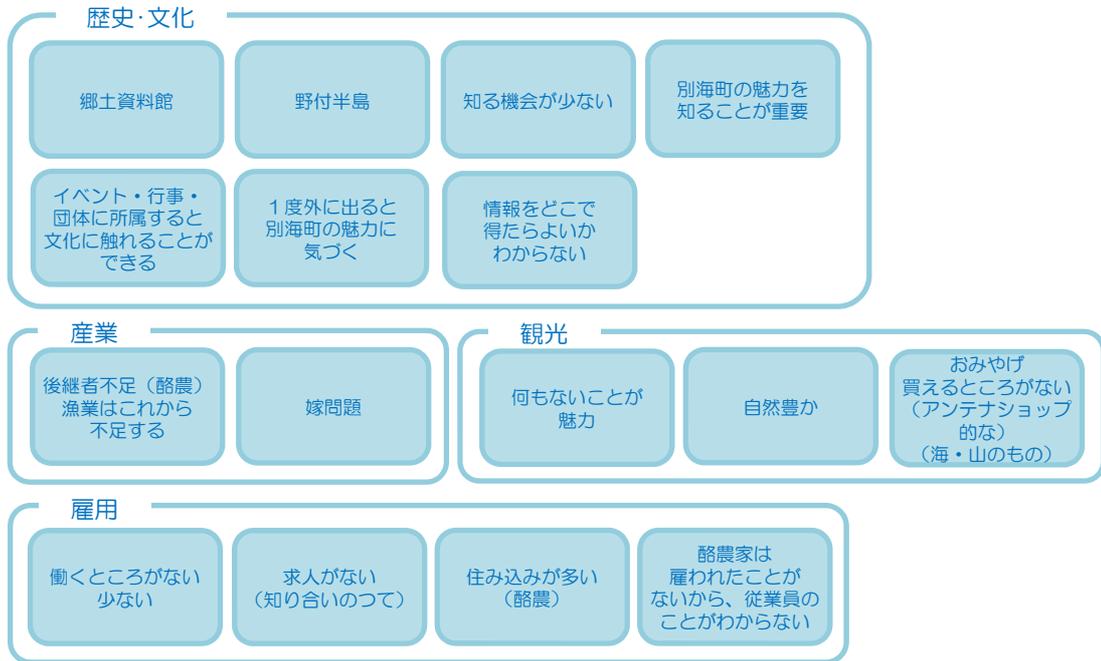
ワークショップ討議
「元気な別海町」
ディスカッション (19:45~20:15)

各グループ発表 (20:15~20:25)

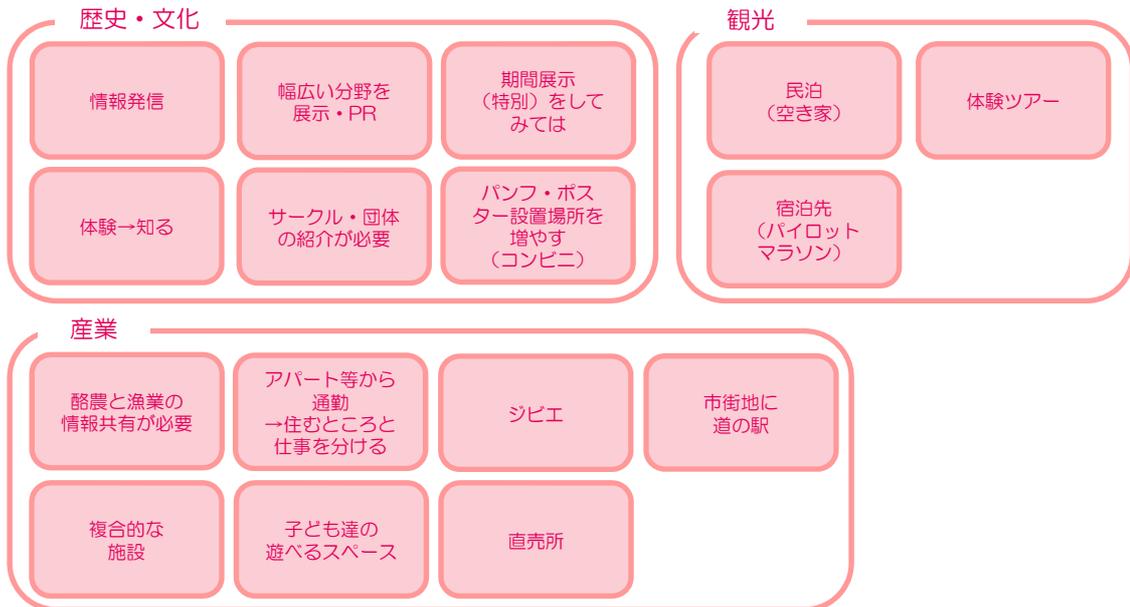
まとめ・閉会 (20:25~20:30)

A班

現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



A班のまとめ

産業に関して、農家の従業員のためにアパート等を設けた方が良いのではないか。集合住宅に住むことで、他の従業員との交流が生まれる。また精神的にも働く場所と住む場所は分けた方が良い。

行政としては、農家等の従業員に空き家などを紹介してはどうか。

観光に関しては、おみやげを買える場所がない。アンテナショップのような「ここに行けば全て揃う」というような店舗が欲しい。また、宿泊施設が少ない。ホテルを新たに作ることは考えづらいので、民泊を活用できないか。特にパイロットマラソンの時は、釧路など周辺の街に宿をとって参加する人もいる。別海町に滞在して欲しいのなら宿泊の手段を充実させたほうが良いという意見が挙がった。

B班

現状や実体験

産業

漁業者は組合員しか
なれないが
まだ後継者がいる

加工場には
人はいない
地元の若い人は
すぐやめる
中国→ベトナムへ
シフト

団体としての活動が
看板だけになってい
ないか

現状維持で
よいのか

観光

フットバス
旧標津線を利用したもの
PRはしたが
関心がない

フットバス
本州の若い女性
喰いつきがよい

フットバス
管理が大変
(高齢等)

旧奥行駅まで
バス利用
お金がかかる
歴史的なもの
家畜にもあえる
農業的な風景

農家民泊
だとすると
お客を迎えに行く
時間がとれないので
お金をとれない

野鳥にあえる
シカもいる
風景がすばらしい

観光も浜・海の方
だけに
山にも魅力がある

市街地の
宿泊施設の
少なさ

尾岱沼でも宿泊は
少ない
通過型

宿泊施設が少ない
ファームイン

産業

酪農を体験したい人
はいっぱいいる

酪農体験
フェイスブックから
若い女性も来る

別海町が生乳生産量
日本一を知らない
町外の人が誰も

雇用

若い女性は
バリバリ働きたい
て来る

さくてい師
人工受精師
女性が多い

ネットで
農家が個別に
募集かけて失敗する

農業のすそが
広い
コントラヘルパー
じゅう医

農業系の
大学生を受け入れる

酪農家と
同じ生活をして
みて
就農につなげたい

理想の想像

観光

若い人が
ひっぱって
ほしい

シーニック
バイウェイ
週末でもやれる
ようにしたい

観光
町民に
うたえるもの

ロコミ・
SNSのカ

産業

産業と観光を
結びつける

都会では
できない体験

受入側自身が
楽しむことが
大事

女性が多いと
町が
あかるくなる

おもしろい
ツアー

お金をくれるよ
うな観光・体験

市民ができること行政がすべきこと

観光

町民から運動をする
奥行駅
公園にする

道立公園内は
規制がある

雇用

別海は住む場所を
探すのが大変なので
就職する人が流れる

農家も色々な
けいたいがあるの
で紹介できる
システム作り

働ける場所も
住む場所もあるが、
需給が結びつかない

仕事先のなやみを
きける団体が必要

不動産業的な
ものが必要

行政で
新しくきた方の窓口
になる

農協
漁協の役割が
大きい

受け入れ窓口の
一本化

町全体的で
受け入れる
体制

B班のまとめ

観光に関しては、奥行駅やバスなどの観光資源はあるが維持が大変という意見や、宿泊施設がなく、観光客が通過してしまうという声が聞かれた。

産業については、酪農・漁業において、加工の現場での人手不足が深刻だという意見があった。

農家では個人的に求人を出すのが、相性が合わず雇った人が辞めてしまうことが多いため、「どこの農場でどんな人が働いているのか」を把握したり、求職者に対して相性のよい農家や別の職種を紹介するシステムがあると良いのではないかと意見が挙がった。

C班

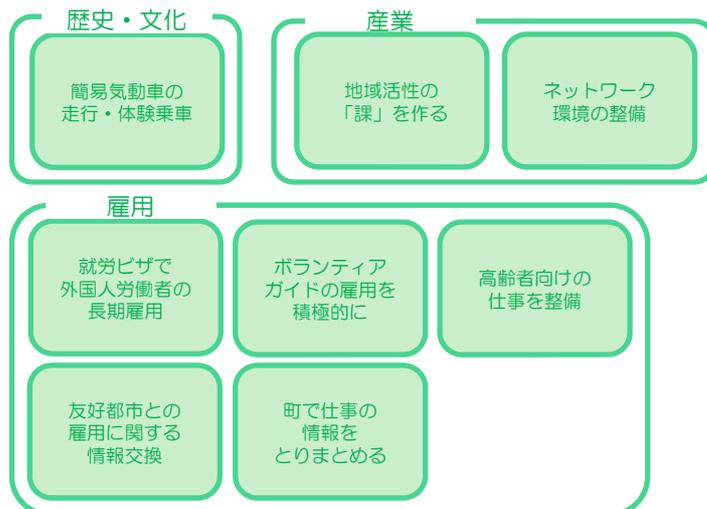
現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



C班のまとめ

観光について、奥行にある簡易気動車の走行・体験乗車を将来的にできないか。行政に予算付けをしてもらいたい。行政を動かすには町民による協議会等を作る必要がある。

産業に関しては、役場に地域活性のための課を作れないか。町内には地域ごとに町内会や協議会などのコミュニティがあるが、それらを取りまとめたり、話を聞いてもらうための課があると良い。

雇用については、町に働きに来る人はいるが、長続きしない。日本人の求職者を探すのも大切だが、研修という形ではなく、就労ビザを活用した外国人の長期従業員の受け入れを町として行ってはどうか。また、海外の姉妹都市との人事交流や、雇用に関する情報交換を行ってはどうかという意見が挙がった。